「ここなら、二日は持つだろう」

そんなふうにいわれて、
それはもちろんわかっていた

それでも、ひとつところに留まってはいられなかった

林立するいくつもの塔ーー

このうえまだ建てるつもりらしい

横を駆け抜けた子供たちは、雪を初めて見たようなはしゃぎぶり

次に雪を見るとき、彼らはもう分別をつけて、関心のないそぶりをするだろうか

あるいは、本当に関心を持たなくなっているだろうか。

そして

それはいつのことだろうか

……

未来はわからない

本当にわからない

でも……

確実なことは、もちろんある

いいんだ、覚悟のうえだったんだから

さよなら

またいつか